

日田商工会議所 デジタル委員会 議事録

1. 日 時 令和8年1月15日(木) 13:00～
2. 場 所 日田商工会館 2階 会頭室
3. 出席者 (会 頭) 瀬戸 亨一郎
(委 員 長) 宮野 大樹
(担当副会頭) 谷口 知幸
(副 委 員 長) 中山 英明
(専 務 理 事) 樋口 恒成
(委 員) 大塚 智、東 真吾
(事 務 局) 大石 昭典、永瀬 亜沙美、佐藤 駿、栗野 稔、春口 国博

4. 議事経過

1) 委員長挨拶

- ・商工会議所内部のシステム化・スキルアップを進めることが、最終的に会員企業への経営指導や支援につながる旨の挨拶があった。

2) 議題

○副委員長の選任について

- ・宮野委員長より中山委員が指名され、全会一致で承認された。

○委員会事業について

①3年後ビジョンの共有と合意形成

- ・ビジョン: 「商工会議所から始まる、日田のデジタル革新」を掲げ、まず職員がデジタル・AI を使いこなし、地域の AI・DX 支援拠点となることを目指す。
- ・ロードマップ:
 - 1年目: 基礎固め (AI への抵抗感をなくす・現状把握)。
 - 2年目: 実務活用 (業務効率化・20-30%の時間削減)。
 - 3年目: 地域展開 (地域 DX ハブとしての確立)。
- ・合意事項: 内部のデジタル化・効率化を先行させ、そのノウハウを地域へ波及させる方向性で合意した。

②デジタル&AI 化の目的の再確認

- ・人手不足の中で業務を回すためにはデジタル化が不可欠である。
- ・DX の目的は「自分たちの仕事を効率化し、楽にするため」であり、生産性を高めるためのものであるというベクトルを合わせることが重要であると確認された。

③職員の現状課題に関する仮説出し

- 事務局 (春口) より、現状のシステムおよび管理状況について報告があった。

• OA 機器・システム現状:

- PC: Windows 11 を職員一人一台配備済み。
- サーバー: 老朽化しており再リリース中。ファイルサーバーを残し、基幹システムは来年度クラウド化を検討中。
- 保守: 大分交通(株)情報システム営業部に委託。

• 基幹システム (TOAS) の活用状況:

- 日本商工会議所提供の「トータル OA システム (TOAS)」を使用 (会員管理、経理、相談業務等)。
- 現状の課題: 会員情報や経理処理に加え、本来は経営指導 (金融・税務支援等) の履歴を蓄積し、分析や「伴走型支援」に活用する機能があるが、現状は単発の支援内容を登録するのみにとどまっている。
- 機能不全: 継続的な支援履歴の管理やデータ分析が十分に機能しておらず、この点の見直しが必要であると報告された。

• 業務上の課題:

- 紙文化と保管場所: 決裁文書や保管書類が膨大であり、新会館移転に向けた整理 (廃棄・電子化) が急務。規約による保存期間の壁もある。
- 業務の重複・属人化: 紙とデジタルの二重管理や、担当者ごとのフォーマットのバラつき (属人化) が発生している。
- 意識改革 (5S): デジタル化の前に、不要な業務を捨てる「5S (整理・整頓)」が必要であるとの指摘があった。

④ 1 年目の最優先アクションの決定

- 現状の「洗い出し」: 職員が抱えるアナログ業務の課題、無駄な作業、困っている点を具体的にリストアップすることを最優先とする。
- 問題点の可視化: 業務上の「問題点」を書き出すシート (谷口副会頭提供) を活用し、職員から課題を収集する。

⑤ 調査・ヒアリング担当の役割分担

- 実地調査 (一日商工会議所職員体験): 次回委員会までに、委員が実際に商工会議所内に入り、職員の業務実態 (電話対応、決裁フロー等のアナログな部分) を観察・ヒアリングすることとなった。

○その他

- 他会議所事例: 津久見商工会議所が支援業務管理や公式 LINE 活用において先進的であるため、視察を検討する方針が示された。
- 連絡体制: 委員会用の LINE グループを作成し、連絡手段をメールから移行する。
- 次回開催: 2 月 19 日 (木) 10:00~ (キャッシュレス委員会と同日開催)。

3) 閉会 (記録終了)